

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

おはようございますと言える時間帯に登壇の許可をいただきましたので、一般質問を始めさせていただきます。私、今回、6項目について予定しておりますが、午前中に切りよく終わらせたいと思いますので、前置きは省略して入りたいと思います。

まず、1番の定額給付金についてでございますけど、これは世界的経済不況の中で、内需を刺激して経済効果を上げようというものであろうと考えるところでありますけど、この定額給付金の支給ということについて、話題が持ち上がって、長い間かかってやっと実現という姿が見えてきたところでございますけど、この定額給付金を本市ではどのように武雄市の経済、あるいは発展に、内需拡大に結びつけようとしているのか、お考え、方法等をお伺いいたしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

定額給付金についてはこのように考えております。この給付金については、3月末から申請が開始になりますけれども、私たちといたしましては、ぜひ地元で使ってほしいということとであります。これを応援するものとして、プレミアム商品券の発行、これは武雄商工会議所、両商工会が一生懸命取り組まれておりますので、これ等も活用しながら、これはきちんと広報いたしますけれども、ぜひ地元で使ってほしいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

地元で使っていただくようにということで、商工会議所とか連携をしてということでございます。

方法については、まだお伺いしていないわけではありますが、銀行振込ということを知っているところでございます。銀行振込となったら、現金支給よりも銀行へ一たん振り込まれてしまったら、それを引き出しに、おろしに行ってから使おうかという意欲がなくなるんじゃないかなと。現金でほんともろうたら、ここあるけんが、ちょっと買い物にというようなことも考えられると思いますけど、その辺のことと、その貯蓄ではなく消費してくださいというような呼びかけの方法とか、そういうふうな方法については、どのようにお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

角企画部長

○角企画部長〔登壇〕

簡単に給付金のことを説明いたしますと、住民への生活支援ということで、市内では約8

億円程度が支給されます。支給の方法といたしまして、今お話ありましたように口座振込というのが原則で、これは国からの御指導でございます。といたしますのは、やはり窓口で現金給付となりますと、いろんな事故の問題、そういうことがございますので、口座振込ということになっております。

そういうことで、申請の際に案内を出すわけでございますが、その中に、ぜひとも市内で消費していただくような、そんな案内も入れて申請書を出したいというふうに思っております。

それと、いつ支給するのかという電話問い合わせがじゃんじゃんかかっております。先般、どうしてもゴールデンウイーク前までには支払いたいということで、銀行等と協議を何回も重ね、4月24日第1回目の給付ということで、今銀行との折り合いがついております。ただ、やはり早く給付していただきたいと。近隣の町の例もございましたので、そういう要望もございますので、なるべく早く給付できるように、今後また努力したいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

銀行振込ということは、もう変えないということですね。いつごろかと、本市では4月24日ごろということ。もう支給されたところもありますし、佐賀県では大町町ですか、今月いっぱいまで支給ということ聞いておりますけど、この対象者ですけど、例えば、転入とか転出、死亡、誕生とか、行方不明者とか、いろいろおられますけど、例えば、1日違いで、それで対象にならんかったというような部分もありますけど、そういうところはどのようになっているんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

角企画部長

○角企画部長〔登壇〕

対象者でございますが、ことしの2月1日現在の住民と。これは外国人も含みます。1万2,000円ということでございます。また、2月1日現在で、18歳以下の方と65歳以上の方につきましては、8,000円の加算でございますので、2万円の給付というふうになります。今、議員言われる1日違いでというのは、いかんともしがたいことというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

これはめったにおられないと思いますけど、受け取らんばいと言う人もおられるんじゃないかと思いますが、こういう場合はどのようになるのでしょうか。

それと、その経費ですね。自治体丸投げということを知っています。で、その費用というのは、どのくらいかかるのか。それで、どちらがその費用は持つのかというようなところをお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

角企画部長

○角企画部長〔登壇〕

いろいろ受け取る、受け取らないという議論が国のほうでもあっておりましたが、私どもはぜひ受け取って、購買、地元で消費をしていただきたいというふうに考えております。最終的には受け取る、受け取らないは本人の自由でございますが、なるべく受け取っていただくように申請書にも書きたいというふうに思っております。

それから、この事務に係るすべての費用につきましては、国から補助として出るということになっております。これにつきましては、追加で補正をお願いいたしたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

その費用負担というのは、国からということですね。わかりました。

今回、こういうことで今、振り込み詐欺とか発生しておる、その中で給付金詐欺というものがまた出てきたというふうなことを聞いております。その給付金詐欺とかの対策なんかも考えておられるのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

角企画部長

○角企画部長〔登壇〕

いろんなところで給付金詐欺、あるいはいろんな名目の詐欺が発生いたしております。第一義的には警察のほうに対策をお願いするというのが筋かと思っておりますが、我々も申請書の中には、そういう詐欺に遭わないような注意、お願いを入れたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

どちらにしても、市内でお買い物をしてくださいとか、こういう詐欺に遭わないようにという、そのような呼びかけ等もやっていただきながら、皆さん、ぜひ受け取っていただいて、武雄市内での消費をしていただくという方向でやっていただきたいと思っております。

では、次に移ります。市民病院民間移譲についてということでございますけど、本年1月

に市民の意思での民間移譲が決定したわけです。その後、移譲先とはどのように進んだのか。

そして、新病院の建設予定地ですね、その辺の進捗があったらお伺いしたい。また、池友会側の進みぐあいとかもありましたら、お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

角企画部長

○角企画部長〔登壇〕

移譲先等の話でございますが、御存じのように、市民病院につきましては、8月11日から医師の派遣をいただいております、順調に24時間、365日の救急対応して、患者数もふえて、非常にいい成果を上げているというふうに思っております。

具体的な移譲に関する協議でございますが、公募要綱の中に書いておりました移譲に関する条件、あるいは選考委員会での条件、こういうのも検討するために先般から第三者委員会の設置、あるいは運営についてお話をしていたところでございますが、第三者委員会を立ち上げる前段までにこぎつけたという状況でございます。

新病院の建設予定先につきましては、平成20年7月28日に「武雄市立武雄市民病院の移譲に関する基本協定」というのを移譲先と締結いたしております。その協定書の第5条に市は用地の取得について、協力、あっせんするというふうに決めておまして、移譲先の用地の確保について、協力を行っているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

移譲先の用地の協力というところで、具体的な方向性とか、場所とかはまだ示されていないというようなことでございますね。

あと、新築移譲した場合、現在の川良の市民病院の跡地の活用方法についてということ。先ほど高木議員のほうへも御答弁いただいたと思いますけど、この辺については、川良の皆さんとの意見とかを集約しながらということをお伺いしたわけですけど、川良の皆さんとはそういう具体的な話はまだなされていないということでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

角企画部長

○角企画部長〔登壇〕

現在の市民病院の跡地につきましては、地元の川良区初め、いろいろなところから武雄市のまちづくりに資するような利用をしてくれという意見をよく耳にすることがございます。そういうことで、先般、市長が答弁したとおり、地元川良区の御意見を聞きながら、武雄市の要望も伝えていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

先ほど高木議員のほうからも、インフルエンザとか、緊急の場合に備えた、そういう病棟に使ってはどうかという提案もございましたし、また福祉・介護・リハビリとか、温泉療法等々、今後いろいろ考えていかれると思いますけど、また有効利用のほう、よろしく願いして、次に移りたいと思います。

では、3点目ですけど、連続立体交差事業ですね、その高架と関連事業についてということでございますけど、松原通りの区画整理事業ですね、このおくれがちょっと目立っているんじゃないかというようなことで、どうなっているのかという、この地域の方からよく尋ねられるわけですけど、そのおくれの要因、理由ですね。そういうことと、今現在の松原通りの進捗状況と今後の予定計画等々について、お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

お答えいたします。

松原地区につきましては、今現在、仮換地指定の準備をしておるところです。今週中には地権者の方に仮換地指定通知が届くという状況でございます。これを受けまして、補償に、建物移転に入るわけですが、新年度、松原地区、一応全地権者で35件ぐらいあるんですけど、その建物の移転補償に入っていくということになっております。

その移転を完了するとして、やっと道路の工事に入っていけるわけです。ですから、今、松原地区の西浦の交差点から移転先の宅地造成のほうの発注工事を準備しているというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

移転交渉の段階というようなところですね。

次は、駅舎についてということですけど、高架開通で大体の雰囲気はわかってきたんですけど、現在工事中の部分がどうなるのかというようなところと、普通、お土産屋さんとか、コーヒー、軽食とかうどん屋さんとか、駅舎の中にありますけど、その辺はどのようになっているのか、その辺のレイアウトがあったらお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

駅舎についてですが、高架本体が一応完了したというところですよ。今から駅舎の上屋工事

に入ると。その完成が大体11月を見込んでおります。それと同時に、今、観光交流センターの工事をしているわけですが、それも駅舎の11月完成と同じく、そのときに観光交流センターのほうも完成するということですのでございます。

あと高架下につきましては、観光交流センターしか市の計画としてはございません。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

その観光交流センターという中に、お土産屋さんとかなんとか入ってくるというふうなことですか。はい、わかりました。そういうことですね。

次、駅の玄関の現在の車寄せの件ですけど、現在、南口の玄関わきに、バラス敷きの駐車場で、20分か30分は無料ですよというようなところがありますけど、あそこは今後の新幹線駅とかに充ててあるんじゃないかというふうに考えます。北口の車寄せとか、屋根との関係ですね。雨の日のタクシーとか、送り迎えの車の乗りおりに、大概のところは車寄せまで屋根が、ぱーっについておりますけど、その辺については、どのようになっているのかというところをお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

北側の車寄せにつきましては、駅舎からもうすぐ道路に面しているという状況でございますので、あそこは県道になりますので、その道路に県のほうで今シェルターをつくるというところまでの協議が進んでおります。それで、駅舎のシェルターをつくる時期としては、駅舎をつくっても、その駅前の道路をつくらんと意味がないわけですね、道路をつくらんと。要するに車を寄せられるような施設をつくると。そのほうを区画整理のほうでしますので、それと同時に、県のほうにシェルターもつくってもらおうという状況になります。今、時期として、一時的には今の状況で駅は使ってもらわにやいかんという状況です。今の道路から駅舎までの約10メートルぐらいに道路をつくりますので、その道路をつくる工事に合わせてシェルターもつくっていくということになります。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

わかりました。普通、新しい駅はそこまで配慮をしてあるようですので、武雄の場合、どうなっているのかなということで質問したわけですけど。

次は、高架下の利用ですね。実は高架下は普通、駐輪場とか、あるいはそうでない場合は、もうフェンスを張って、バラスを敷いて、そしてあとは草ぼうぼうというようなところで、

空き缶とか、いろんなものがほうってあるわけですけど、その辺は高架下とかは利用したほうが、きれいに見えるし、きれいであるようですが、その辺の高架下の利用というのは、どのようにお考えかということをお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

高架下の利用につきましては、これは高架下はJRの所有ということ形になりますので、JRとの交渉、契約という形になるわけですが、その中で、武雄市の公租公課分として、高架下の15%を無償で使用できるというふうになっております。その面積が約2,500平米あるわけですが、その一環として、川端通りを今遊歩道というか、歩行者用に整備したわけですね。あれが大体1,500平米あります。そのほかに今現在、工事に入っております観光交流センターが約600平米で今整備する予定になっております。それと、あとその後、駐輪場が駅施設のちょっと東のほうに今つくる予定ですが、これが約300平米あります。そのほかに小楠とか天神のほうから要望が出されております消防詰所、これを今計画しております。これが公租公課利用としての無償での利用できる、今計画している高架下の分ですね。あとにつきましては、有償によるJRとの契約ということになるわけですが、それにつきましては、問い合わせが今23件入ってきております。大体駐車場利用という形での問い合わせがあっているというところがございます。ただ、これにつきましては、何しろJRとの有償による賃貸契約という形になります。ですから、JRと直接契約してもらおうという形になります。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

消防の詰所もできるわけですよ。ここ、私は初耳やったです。

あとは駐車場とかに、これは個人とJRとの直接の契約ということですね。そしたら、もう割とかなり有効利用ということはできておるわけですね、草ぼうぼうでなしにですね。そういうことで、はい、わかりました。そしたら、次の質問。

○議長（杉原豊喜君）

質問の途中ですけど、ここで1時20分まで休憩をいたします。

休	憩	11時57分
再	開	13時19分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き、午後の会議を開きます。

一般質問を続けます。16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

次は、4点目の小規模契約事業者登録制度、いわゆるまちの職人さん制度ですけど、これの20年度の成果について、どんな状況であったのか。登録者数、工事件数、総発注高等々をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

20年度の小規模契約事業者登録制度の活用状況でございますけれども、2月21日現在で、発注件数が約240件、発注総額が約1,085万円、1件当たりの発注額が約4万5,200円というふうになっております。件数、発注金額ともほぼ昨年と同様でございます。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

大体登録者数とか、発注高についても、昨年度、またそれ以前と、ずっと余り変わらないような感じだと思います。今後、この制度をもっと充実させてほしいと、してほしいということですけど、現在、請負額が50万円ですね。これを70万円とか80万円に発注額のアップをお願いしたい。また、分離分割発注をして、200万円の工事があっても、工種別に分けたら50万円以下になるというようなところを分離また分割をして発注をしていただきたいということですけど、この景気低迷の中、この制度は大変ありがたいものと思っております。

そこで、この制度を引き続き継続をしていただくこと。また、そういうことで今後の取り組みについて、いかがなものかということをお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

登録者数をお答えしていませんでしたけれども、現在の登録業者数は67社でございます。この小規模契約事業者登録、まちの職人さんでございますけれども、この制度につきましては、議員おっしゃいますように、入札に参加できない小規模事業者の受注機会を拡大するという趣旨で設けておりますので、今後とも引き続き活用していきたいというふうに思っております。

それから、分離分割発注でございますけれども、これまでも発注は一括発注は避けておまして、工種別に分けることで発注件数をふやしていこうというふうなことで引き続き工程や施行内容等も検討しながら、可能な限り取り組んでいきたいというふうに思っております。

限度額の件でございますけれども、一応50万円未満の小規模工事について、財務規則等に定めます契約補償金の免除とか、請負契約書の省略などの事務手続を簡素化するというふう

なことで、多くの業者への発注機会を拡大するというようなことが、この制度の目的でもございますので、請負額の増額は現在考えておりませんで、この請負限度額を抑えることで多くの受注機会が確保できるものというふうに考えておりますので、今の制度をそのまま引き続き活用していきたいということで考えておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

登録者件数については、67件と。前年度、前々年度よりもちょっと下降しているということですね。この制度を今後地元業者の育成、また景気回復等々のためにも、ぜひともさらなる充実をして、そして継続をしていくことをお願いしまして、次、5番目の新幹線についてをお伺いしていきます。

松尾初秋議員はフル規格はもう言わないということですが、私は今からフル規格を取り組んでいただきたいということを質問していきたいと思います。

最近になって、この新幹線についても、負担増という話が持ち上がりまして、白紙撤回とか凍結とか、何かちょっと西九州新幹線にとっても騒がしくなったかなという感じがするわけです。そこで、やはり在来線を使ったフリーゲージトレインということで、スピードは出せない。しかし、ブレーキはよくきくということで、今の時点で走り出す前によくブレーキがきくなあとと思うわけですが、ブレーキをかけるのがちょっと早過ぎると思いますね。

そこで、現時点での新幹線についての進捗状況ですね、それと今後の予定計画等々で、まだこのような状態で、10年後という開通の見通しということを知っておりましたけど、10年後の開通は見込めるのかと。以上についてお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

お答えいたします。

新幹線の進捗状況と今後の予定ということでありましたけれども、武雄市内での鉄道運輸機構の事業としましては、平成20年度につきましては、中心線測量、地形測量、環境調査などが事業として取り組まれております。この調査結果をもとに、平成21年度に実施設計が行われ、早いところでは、平成22年度に用地測量、買収が行われる予定で、9年後の完成を目指しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

これから9年後の開通を目指してということと、現在、調査測量の段階というようなこと

だろうと思います。

先日、3月2日の佐賀新聞の読者の声、ひろばの欄に、早くもほころび始めた長崎新幹線。また白いかもめ、みどりは快適、順調に走っているのがわかっていない等々の表現で意見が掲載されていました。それについては、先ほども申しました在来線を使ったフリーゲージトレインということで、この新幹線の魅力が出せないでおるんじゃないかと。そういうところで普通の白いかもめ、在来線の特急と比較した場合、余りメリットというか、魅力がないというようなことではないかと理解するところでもありますけど、新幹線ということは、高速鉄道ですから、やはりフル規格を導入して、今後取り組むことが必要ではないかと思うわけですね。博多までの時間差が10分程度ということですけど、鹿児島新幹線は京都まで直通で乗り入れるとか、そういう話も聞きますので、乗りかえなしで大阪直通ぐらい目指してもいいんじゃないかと考えるわけでございます。今後、フル規格のほうに取り組もうという意思等がえられるのか、その辺についてお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

議員御存じのとおり、政府・与党の申し合わせでは、フリーゲージトレインでの整備を目指すことということで、現在、認可をされているわけでありまして。議員主張の博多から長崎までフル規格ということになれば、当然、計画変更が必要になるということになるわけですし、そうなりますと、9年後の開通というのもなかなか難しくなるんじゃないかなというふうに考えているところです。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

そういうことになれば、9年後の開通は難しいということで、全く不可能ではないという方向にも受け取れると思っております。この新幹線については、負担増というお話もあるわけでしょう。そうしたら、負担増を要求されたら、やはりその付加価値は高めてもらうということをこっちから求めてもよかとじゃなからうかと思うわけですね。建設費の上昇とかが原因ということでもありますけど、今の時代、建設費というのは下がっていきよるですね。どうして新幹線だけそういう上昇するかなと思うわけでもあります。どうしても新幹線が在来線を走って、松尾初秋議員も言っておられましたけど、踏切ですね、これはどうしてもなくしたほうがいいんじゃないかというふうなことで、この際、フル規格で踏切のない高架上を走らせるというのはどうでしょうかということですけど、前進か凍結か、市長の意見を願います。踏切をなくして高架にして、そしてフル規格でということですね。新幹線については、凍結という、これは表現の仕方でありましようけど、前進か凍結かで市長の所見を

お伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

非常に難しい御質問だと思います。まず、フル規格については、先ほど伊藤理事から答弁させてもらったとおりに、もう政府・与党で枠組みが決まっております。ですので、これを変更するということになる、もう凍結どころか、未来永劫多分できない可能性が高いのではないかというふうに思っております。

その上で高架化の話なんですけれども、これもさきに議会で答弁いたしましたとおり、古川康佐賀県知事が、高架化については、財政負担の観点からちょっと考えにくいということ、もう県議会でお話しをされていますので、基本的にこれもちょっとやっぱり厳しいのではないかなというふうに思っております。正確な試算はわかりませんが、私が聞くと、高架化で、やっぱり3,000億円から4,000億円かかるということも以前聞いたことがありますので、そういった意味からすると、費用負担をどこがどう求めるのかということに関して言うと、ちょっと厳しいのではないかというふうに思っております。

ただ、先ほど、これも伊藤営業部理事が答えていますけれども、9年後を目指すというふうにありますので、さまざまな意見集約の中で踏切対策であるとか、一部高架の話も出るかもしれません。そういった意味で安全対策、騒音対策も含めて、いろんな意見を聞いて、それを県、国にきちんと話す必要があるというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

まだ開通まで9年間ありますので、状況はまたいつどう変わるかわかりません。フル規格のほうにも進むかもわからない、可能性もなきにしもあらずと思っております。

これは私は高架ということで、武雄温泉駅から肥前山口までを、今、単線の部分ですかね、肥前山口13.7キロの単線区間、ここを高架にしたらどうか。この部分ですね。次の34号線バイパスとちょっと結びつけて考えてみたわけですよ。そこで、34号線バイパスも江北から武雄バイパスまでの区間でありますから、この単線区間も武雄から肥前山口の区間ということで、これはちょっと笑う人も出てくるかと思えますけど、この新幹線の高架と34号線バイパスを一つにまとめて一本化して進めるという、端的に言えば、1階はバイパス、2階は新幹線が走るというふうなことはできないかと考えるわけです。これは可能か不可能かということになりますと、海の上にも橋をかけるという時代ですから、技術的には不可能はないと考えるわけです。ただ問題は、JRと国交省との所管の違いということだと思うわけですが、こういうことで可能であれば、経済的にもまた大きな削減となろうし、一挙両得とい

うことで、できないかという、無理なのか、無理でないのか、このようなことは考えられませんかということですけど、答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

貴重な御意見を承りました。現実問題として、ちょっと無理かなというふうに思っております。ただ、一石二鳥というか、そういう議員の非常に見識のある提言については、それはできない、できないではなくて、また我々も協議をしたい。ただ、御理解いただきたいのは、この話の流れというのは、特に北方町さんにおける歴史の積み重ねがあります。既に国が国道34号線のバイパスとして保有されていることでありますとか、今の「ふちがみ」の交差点の部分でありますとか、今までの積み重ねがありますので、先ほどの議員のつばさの生えた御提案というのは、そこの整合性がちょっと欠ける嫌いがありますので、そういった意味で、我々としては今の延長線でやっぱり話を進めていく必要があるだろうというふうに思っております。

重ねて申し上げますけれども、ただ、非常にいい御意見をいただきましたので、これは感謝申し上げたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

なかなか難しいことではあるという市長の御意見ですけど、私、今の市長だったら、何かこの辺、可能になるんじゃないかという感じがするわけですね。やはり不可能なことを可能にしていくということも前進の一つではないかと思うわけですので、ぜひとも検討をしていただきたい、検討をしてみてくださいということを強く要望します。

次は、この34号線バイパスですね。この34号線バイパスは、国道498号線、これとまたかわり大きいと思うわけです。34号線と498号線、これは北方中央線と武雄バイパスの間は既に買収がされておると聞いています。多分バイパス用地として準備されているものではないかと思うわけですけど、今度、北方のほうにできる計画の中の新工業団地ですね、その建設も視野に入れた交通網の整備と、交通混雑の解消緩和にどのような構想をお持ちかということをお伺いしたいのと、498号線の進捗と、34号線、また新バイパスとのかかわる付近については、どのような構想をお持ちかということをお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

今、議員、新工業団地の件でお尋ねになったわけですが、確かに工業団地の計画がありま

す。その工業団地ができることによって、あそこの大崎交差点の交通量は今以上に増加して、今以上な渋滞を招くというのは予想されます。

そういうことから、昨年からの498号線あるいは34号線については、今年度になって、今まで延べ10回要望活動をしております。それでもって498号の大崎の交差点の改良、これと34号線の今の買収済み区間ですね。この34号線のバイパスにつきましては、買収済み区間はあるわけですが、その先がまだルート発表があっておりません。それで、今、我々が強く要望しているのは、買収済み区間について、早く工事をしてくださいと。それでもって、その道路に大崎交差点のあの改良をあわせたところで北方朝日線、今県道ですけど、それが498号線に切りかわるという構想がありますので、それを早く今の買収済みの区間まで延伸してくださいというところで要望しています。

それで、つい先週も市長、国交省に上ってもらって、その要望をしてもらったところです。それでもって、県議会のほうでも、よく質問してもらっていますし、その要望の結果は、そんなに暗いという感触は私は持っておりません。大体ちょっと光が見えてきたかなという感触を持っておるといってございませぬ。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

暗い感じではなかったと、見通しは明るいということだと思います。

次は、道路行政の国道35号線について。

この件については、幾度となく私も取り上げておりますので、状況とかいうことについては省略いたします。これまで何回も期成会とかにも参加して、説明を受けたところですけど、なかなか前進しないなど。この35号線バイパスのほうも一緒ですけど、なかなか前に進んでないというようなことで、その進捗についてと、次年度の予定計画等について、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この国道35号線の踊瀬付近の改良については、これは旧山内町の杉原議長さんを中心にして、私は国におりましたので、一生懸命されておられました。この流れをさらに強くしたいというふうに思って今まで進めてまいりました。その結果、現在の状況は、関係する皆様方から立ち入りの測量及び事業推進の同意をいただいております。同意をいただいて、佐賀国土事務所に提出をいたしております。今後の計画につきましては、21年度路線測量及び道路実施設計を予定されております。

この国道35号線につきましても、促進期成会がございませぬ。ここでも事業の早期実施に向

けて、要望活動に取り組んでまいりたいというふうに思っておりますので、ぜひ議員各位のお力添えを賜りたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

踊瀬カーブですが、あの辺までたどり着くには、なかなか時間がかかるなあと思うわけですけど、ここは35号線の堂島から踊瀬、永尾、あの辺までは通学路としての歩道がなかなか整備できんわけですね。その進捗もさることながら、この歩道だけでも早急に整備できないかという、今要望といたしますか、そういうところですけど、そういう計画とか、今のところ耳にしないわけですけど、どういうものだろうかということをお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

国道35号の歩道整備につきましては、今まで何回となく国道のほうに要望しております。ただ、国道との協議の中では、この35号線の踊瀬地区のカーブの間、これがまず先だということで、その区間につきましては、歩道整備も計画入っております。それで、来年、新年度から詳細測量あるいは詳細設計に入るといふ状況でございますので、その後はまた歩道設置を強く要望していきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

下山、上西山の子どもは御船が丘小学校まで、ちょっと3キロを超える、4キロ近い通学路なんですね。ここをやっぱり通っていかないと、たどり着けんものですから、ここの分は歩道の整備というのは、もうちょっとスピード感を持って取り組んでいただきたいと切に要望して、次の市道について今度はお伺いします。

この永尾から福和に通じる市道ですね。これは合併直後に地域間を結ぶ生活道路として、合併特例債を充てた計画だと記憶しているわけですけど、あれからかれこれ3年近くなりますが、現在どのような進捗状況なのかということをお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

議員御質問の永尾福和線につきましては、合併での武雄と山内を結ぶ道路として、特例債事業で取り組んだところです。この事業につきましては、19年度、昨年度から取り組んでおります。それで、今、事業期間としては24年度まで6年間の予定で、事業費としては8,800

万円を予定しております。昨年度は測量を実施しまして、今年度から事業に入っております。今年度は短い区間ですけれども、73メートルを施工しております。そして新年度も引き続き工事に入りまして、予定の24年度完成ということを目指しております。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

6年間で完成ということで、これは合併特例債は多分10年間だったと。そこをオーバーしたら、10年間過ぎたら合併特例債は適用できんのではないかと思うわけですけど。

この合併特例債を充てた市道の整備ですね、これは本市で今現在、何カ所ぐらいあるのかということです。整備箇所とか、その進捗とか。もう既に完了したところがあったら、その完了したとか、そういうところの状態をお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

今現在、道路改良事業としては、22路線、約2億5,000万円の事業費を充てております。今年度も同じく22路線で2億5,000万円を予定して実施しております。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

そしたら、次、これで最後の質問になりますけど、市道西山線を延長して、下山線に接続ということで、ここもこれまで何度も取り上げておりますので、説明のほうは省略します。現在、淵ノ尾橋のかけかえ工事が終わった状態で、現在の状況では、武雄川の左岸の一部が工事中となっておりますけど、この西山線延長工事ですね、来年度、再来年度、どのように計画されているのかということです。現在の進捗についてと、来年度はどうなるのかということをお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

御質問の市道西山線でございますが、市道西山線は、武雄川改修に合わせて、堤防に2メートルの道路を肉づけして5メートルの道路をつくるという計画で、用地買収だけは済んでいるんですけど、県のほうの河川改修がどうしても下流部のほうでちょっとひっかかっておくれております。それで、来年度の西山線の計画はという質問ですが、これにつきましては、県がいつ左岸の改修工事に入ってくれるかと。その改修工事に入ってくれたら、それと同時に西山線の工事にも市としては並行してつき合いたいと思っているんですけど、ちょ

っと県の河川改修工事がいつになるというのが、来年も今計上されていない状況でございますので、河川改修が工事が入り次第、うちも一緒に入るということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

ここは用地買収は県のほうはもう終わってしまったでしょう、済んどったですね。あと2メートルの市のほうの用地買収は今どうなっておりますか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

市道の用地買収も完了しております。あと工事に入るだけです。

○議長（杉原豊喜君）

16番樋渡議員

○16番（樋渡博徳君）〔登壇〕

市道のほうも用地買収済んでおるということで、あとは工事に入るだけということでございますので、できるだけあとは工事に入ってください。

この道路が通じますというと、先ほどの危険がいつぱいの国道35号線に出ることなく、御船が丘小学校にも子どもたちは行けますので、とにかくこの部分も急いで、早急な手当てをお願いして、以上で私の質問を終わります。